

愛知県犬山市五条川で発見されたアジメドジョウ

大仲知樹*・佐橋治彦*・武田和明*・松永克幸*

A records of freshwater fish, *Niwaella delicata* (Cypriformes: Cobitidae)
collected from the Gojyou River, Inuyama City, Aichi Prefecture

Tomoki Ohnaka*, Haruhiko Sahashi*, Kazuaki Takeda* and Katsuyuki Matsunaga*

はじめに

アジメドジョウ *Niwaella delicata* (Niwa, 1937) は本州中部の富山県、石川県、福井県、長野県、岐阜県、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、奈良県に分布するドジョウ科の魚類である(中島・内山, 2017)。丹羽(1954)は、本種が岐阜県の河川に広く分布していることを示し、木曾川では岐阜県恵那郡大井町(現、恵那市)、庄内川では岐阜県土岐郡釜土村(現、瑞浪市)を分布最下流の確認地点として示されている。また、浅香ほか(2018)が記した愛知県のグリーンデータブックの文献調査を中心的にまとめた著者の一人、鳥居亮一氏によれば、桑野(1982)が犬山市内を流れる木曾川本流で報告をしているものの、それ以外に愛知県内での本種の記録はない。

このような文献情報の中で、筆者らは、今まで生息確認がなかった犬山市の五条川で2021年5月28日に本種を採集したのでここに報告する。

記 録

アジメドジョウ *Niwaella delicata* (Niwa, 1937)

標本：1個体。豊橋市自然史博物館魚類標本TMNH-F-2400(第1図)。

採集データ：犬山市五条川，2021年5月28日，採

集者 佐橋治彦。

全長：65.7 mm，標準体長 57.3 mm。

結果および考察

調査は2021年5月28日と6月11日の2回行った。調査人数は著者の4人であり、調査方法はたも網による採集と箱眼鏡での水中観察である。5月28日に本調査地の平瀬で1個体を採集し、6月11日の調査では採集・目視とも確認できなかった。本個体を採集後、10%ホルマリンで固定し、その後、形態について計測した。その結果、各鱗の条数は背鱗 iii+6、臀鱗 iii+5、胸鱗 i+7、腹鱗 iii+6、尾鱗 8+8 であり、中島・内山(2017)の示した形態と差異はなかった。

中島・内山(2017)はアジメドジョウの体側斑紋に2型があることを述べており、体側斑紋 L5 が直線的な縦条で、尾鱗横帯は1～3列、腹部は無紋の斑紋収束型(Gタイプ)と、体側斑紋 L5 が波状もしくは数珠状の斑紋列となり、尾鱗横帯は3～8列、しばしば腹部にも斑紋列をもつ斑紋分散型(Sタイプ)がある。今回、確認された個体はGタイプと考えられた。

本調査地は、国内外来魚であるオヤニラミ *Coreoperca kawamebari* (Temminck et Sclegel, 1843) や、大仲・向井(2019)が報告した同じく国内外来魚のムギツク *Pungtungia herzi* (Herzenstein, 1892) が確認されている場所

* 犬山フィールドサイエンス、INUYAMA FIELD SCIENCE.

Corresponding author: Tomoki Ohnaka. E-mail: inuyamafsk@gmail.com

原稿受付 2021年9月4日。Manuscript received Sep 4, 2021.

原稿受理 2021年11月9日。Manuscript accepted Nov. 9, 2021.

キーワード：アジメドジョウ，犬山市，五条川，観賞魚。

Key words : *Niwaella delicata*, Inuyama City, Gojyou river, aquarium fish.



第1図. 犬山市五条川で採集されたアジメドジョウ *Niwaella delicata*, TMNH-F-2400.

と同所である。また本調査地は、筆者の一人である大仲が1990年代より1年に複数回程度にわたって調査を行っている場所でもあり（大仲，1994），当時から昨年秋まで本種は確認されていなかった。

本調査地は森林丘陵地を流れる河川であるが、キャンプ場が整備されており、付近の道路は舗装され、犬山市内外からの人の往来は比較的多い。また、本調査地は庄内川水系に属するが、水源となる多治見市から2.5 kmと近く、入鹿池に貯水された後、清須市やあま市付近で新川と合流し、庄内川と合流することなく伊勢湾にそそぐ。さらに本調査地は南北側と東側を丘陵地に囲まれ、西側の入鹿池に流入する。水源となる多治見市高社山は標高417 mであり、調査地北東部の犬山市八曾山は標高327 m、入鹿池の堰堤の高さが約25 mである。そのため、本調査地付近に位置する木曽川や庄内川が洪水など豪雨災害で本調査地付近に合流したり、庄内川や木曽川のアジメドジョウ在来個体群が流入、あるいは遡上したりすることはない。

また、本種はムギツクやオヤニラミと同様に、観賞魚店やネット販売などで観賞魚として販売されている。そのため、本個体もムギツクやオヤニラミと同様に、飼育遺棄あるいは増殖を目的とした観賞魚マニアなどによる放流の可能性も考えられた。

一方、本種は伏流水中の礫に産卵することが知られている（丹羽，1976）。本調査地の河床環境は精密に調査してはいないものの、その印象として、浮き石が少なく、沈み石が多く、砂やシルトなどが堆積して

いる。また河畔は礫の混ざった砂地であり、ヨシ属 *Phragmites* sp. が繁茂する。

平松・細谷（2006）は、大阪府安威川のアジメドジョウの生息環境を調べ、本種の生息区間は非生息区間と比べ、湧水地点や浮き石が多く、河床型が多様で、夏季水温が低いことを示している。また浮き石の消失がアジメドジョウの減少原因であることを実証している。

本調査地は、浮石が少なく、砂やシルトが多い。そのため、本調査地がアジメドジョウの繁殖には不適であることが予想された。また先述したように2日間行った箱眼鏡による観察調査でも本個体以外を確認することはできなかった。そのため、本調査地でアジメドジョウが定着する可能性は低いと考えるが、今後も経過観察していく必要があると思われる。

謝 辞

本報告をまとめるにあたり、三河淡水生物ネットワークの鳥居亮一氏には文献の紹介をしていただいた。厚く御礼申し上げる。

引用文献

浅香智也・鳥居亮一・向井貴彦・地村佳純・大仲知樹・荒尾一樹・谷口義則，2018. グリーンデータブックあいち2018 汽水・淡水魚類編. 愛知県環境部自然環境課（編），グリーン

- データブックあいち 2018, 愛知県環境部自然環境課, 名古屋, C-1-C-37.
- 平松和也・細谷和海, 2006. 大阪府安威川におけるアジメドジョウの河川内分布と生息環境. 魚類学雑誌, 53 (1): 39-46.
- 桑野 修, 1982. 5 魚類. 犬山市教育委員会・犬山市史編さん委員会 (編), 犬山市史 史料編二 自然, 犬山市, 327-346.
- 中島 淳・内山りゆう, 2017. 日本のドジョウ 形態・生態・文化と図鑑. 山と溪谷社, 東京, 224 p.
- 丹羽 彌, 1954. 木曾谷の魚 河川魚類相生態学上流篇. 木曾教育會, 長野県, 302 p.
- 丹羽 彌, 1976. あじめ アジメドジョウの総合的研究. 大衆書房, 岐阜, 226 p.
- 大仲知樹, 1994. 五条川上流部の魚類相. 神奈川県自然保全研究会報告書, (12): 9-12.
- 大仲知樹・向井貴彦, 2019. 愛知県犬山市で発見された国内外来種ムギツク. 豊橋市自然史博物館研究報告, (29): 33-35.